



第70回

全国植樹祭あいち2019

～木に託す もり・まち・人の あす・未来～

基本計画

第70回全国植樹祭愛知県実行委員会



 愛知県

第1章 開催概要

1. 開催意義	1
2. 開催理念	2
3. 大会テーマ	3
4. マスコットキャラクター	3
5. 大会ポスター原画	3
6. 開催時期	3
7. 主催	4
8. 開催規模	4
9. 開催会場	4

第2章 式典行事計画

1. 基本的な考え方	6
2. 式典演出計画	6
3. 式典運営計画	6
4. 式典進行プログラム	7

第3章 植樹行事計画

1. 基本的な考え方	8
2. お手植え計画	8
3. お手播き計画	11
4. 代表者記念植樹計画	12
5. 招待者記念植樹計画	13

第4章 会場整備計画

1. 基本的な考え方	14
2. 施設配置計画	14
3. 主要施設計画	15
4. サイン計画	16
5. 飾花計画	17
6. 電気・給排水・通信設備計画	17

第5章 運営計画

1. 基本的な考え方	18
2. 招待計画	18
3. 招待者の行動計画	19
4. 受付計画	20
5. 特別接伴計画	21
6. レセプション計画	21
7. 会場内動線計画	22
8. 会場おもてなし計画	23
9. 昼食計画	24
10. 医療・衛生計画	24
11. 消防・防災・警備計画	25
12. 実施本部計画	25
13. 研修・リハーサル計画	26
14. 雨天時・強風時対応計画	26

第6章 宿泊・輸送等計画

1. 基本的な考え方	27
2. 宿泊計画	28
3. 輸送計画	29
4. 運行管理体制・緊急時対応	29
5. 道路交通対策	29

第7章 荒天時式典計画

1. 基本的な考え方	30
2. 荒天会場	30
3. 参加者一覧	30
4. 荒天時運営計画	31

第8章 記念事業等計画

1. 基本的な考え方	32
2. 記念事業の内容	32
3. 関連事業	34

第9章 広報・協賛計画

1. 基本的な考え方	35
2. 広報計画	35
3. 協賛計画	36

1. 開催意義

本県は、主力産業である自動車産業をはじめ、繊維や陶磁器などの伝統産業からロボットなどの次世代産業まで、ものづくりが盛んな「日本一のものづくり県」であり、平成39年度の開業をめざすリニア中央新幹線、国産初のジェット旅客機MRJなど、日本の未来を創るプロジェクトが、この愛知を舞台に大きく羽ばたこうとしています。

また、全国屈指の農業県であり、中でも花きは、昭和37年度から現在まで全国第1位を誇っています。

加えて、平成17年の「愛知万博」、平成22年の「生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）」、平成26年の「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」といった国際的なイベント開催により培われてきた県民の高い環境意識を生かし、環境施策においてトップランナーである「環境首都あいち」の実現を目指しています。

平成27年には「全国都市緑化フェア」を開催するなど、緑や環境をテーマとした取組を継続的に行うとともに、山から街まで森や緑を守る「あいち森と緑づくり税」を導入し、独自の事業を展開しています。

また、公共建築物等木材利用促進法に基づく都道府県方針である「あいち木づかいプラン」や県内全ての54市町村が策定した市町村方針により、官民一体となって住宅や公共施設等への県産木材の利用拡大も進めています。

こうした中で、平成31年に、第70回全国植樹祭が愛知県で開催されることになりました。愛知県での開催は、昭和54年以来40年ぶり、2回目となります。

第70回全国植樹祭を「愛知の誇るものづくりの伝統と文化」、「森と緑づくりや木づかい」など、本県の魅力や取組を全国に発信する機会とします。

愛知県における全国植樹祭の開催状況

愛知県では、昭和54年5月27日、西加茂郡藤岡町（現在の豊田市）にて、天皇皇后両陛下をお迎えし、「緑で結ぼう山村と都市」を大会テーマに、第30回全国植樹祭を開催しました。

この大会では、天皇陛下がヒノキを皇后陛下がハナノキをお手植えになるとともに、南設楽郡鳳来町（現在の新城市）にて、スギとヒノキをお手播きになりました。

また、約2万人の参加者により、ツブラジイ、シラカシ、アラカシ等の記念植樹が行われました。



天皇陛下お手植え



天皇陛下お手播き



記念植樹

2. 開催理念

本県は、日本のほぼ中央に位置し、南は太平洋に面し、西部から南部にかけての一带は平坦で、濃尾平野、岡崎平野、豊橋平野が形成されており、東部には、三河山間部が広がるなど、多様な環境に恵まれています。

また、中京工業地帯の中心として、航空宇宙やファインセラミックス、エレクトロニクス等の先端産業や自動車産業等、世界でも有数の産業集積を誇り、製造品出荷額等が、昭和52年から現在まで全国第一位を誇る「日本一のものづくり県」です。

本県の「ものづくりの歴史」を振り返りますと、江戸時代において、名古屋では、木曾川を経て運ばれてくる良質な木材の一大流通拠点であったことや、名古屋城築城の際に集められた職人が定住化したことから、木材を利用した街づくりはもちろんのこと、「からくり人形づくり」や「山車づくり」、「家具製造」などを通じて、「木材を利用する技術」が培われました。

明治時代においては、こうした「木材を利用する技術」から発展した、時計、鉄道車両、楽器、航空機、織機などの近代産業をもたらし、本県の工業発展の礎となっています。まさに、木材の利用は、本県のものづくりの原点となっています。

一方、本県の「森林づくりの歴史」につきましては、古くは、自然に育った幼樹を採取し、苗木として植樹していました。

江戸時代から明治時代において、三河地方を中心に、種から苗木を育てる技術が発達し、容易にかつ多くの苗木を確保することが可能となり、植樹が進みました。また、尾張地方を中心に、燃料としての森林の伐採等によりハゲ山が広がっていましたが、尾張藩による植樹やヨーロッパの技術を取り入れて実施された治山事業などにより復旧されました。

戦後においては、復興の際に伐採された森林の緑化促進や高度成長期の木材需要の高まりを背景に、植樹が進められました。

こうした先人の方々のたゆまぬ努力が礎となり、現在は県土面積51万6千haのうち21万9千haが森林となっています。

また、人工林の割合は64%で、全国平均の46%を大きく上回り、人工林のうち、成熟して利用できる時期に達している森林の面積は76%と全国平均の52%に比べて大きな割合を占めています。

このように、森林資源が充実し、本格的な利用期を迎えている今こそ、木材利用を推進していくことが重要です。

木材の利用は、林業・木材産業を活性化するとともに、森林整備を促進することから、水を蓄え山崩れを防ぐなど、森林の有する多面的機能の持続的な発揮につながります。

さらに、木材の持つ柔らかさ、温かさといった特性は、快適で健康的な生活環境をもたらしてくれます。

このため、本県では、名古屋市を中心とした大消費地を抱える特性を生かし、住宅や公共建築物、街なみ等都市部への木材利用の取組を広げていきます。

また、成熟した森林を伐採・利用し、植樹をして次世代の森を造っていく「循環型林業」や、森や緑を守り育む「あいち森と緑づくり事業」を推進することにより、多面的機能を持続的に発揮できる森林づくりを加速していきます。

こうしたことから、第70回全国植樹祭は、以下の理念により開催します。

私たちは、「木材の利用」を山村と都市をつなぐ架け橋とし、健全で活力のある「森林づくり」と「都市づくり」を進めていきます。

3. 大会テーマ

木に託す もり・まち・人の あす・未来

- 作者 : 大井田 雄策さん (東京都大田区)
おおいだ ゆうさく
- 制作意図 : 開催理念である「森林づくり」、「都市づくり」を進めることは、そこに住む「人づくり」にも通じることであり、今回の植樹祭で植える木から「森林をつくり」、「都市をつくり」、「人をつくる」ことで、明るい明日や未来をつくっていききたい。

全国から応募のあった899点の作品の中から、選定しました。

4. マスコットキャラクター

- 作者 : 盛 秀雄さん (青森県青森市)
もり ひでお
- 制作意図 : 愛知県の「A」の字をモチーフに、愛知県の森に住む、葉っぱを巻いた元気な女の子をイメージし、キャラクター化しました。
手には、苗とシャベルを持たせ、大会テーマの「木に託すもり・まち・人の あす・未来」を強調し、表現しました。

全国から応募のあった855点の作品の中から、選定しました。



森ずきんちゃん

5. 大会ポスター原画

- 画題 : 「ぼくの木」
- 作者 : 齋藤 悠大さん (西尾市立津平小学校2年)
さいとう ゆうだい
※平成29年度現在
- 制作意図 : ぼくのうえた木に、大すきなかぶとむしやたくさん生きものが、たのしくらせるようになるといいと思ってかきました。

愛知県内の小・中学校の児童生徒から応募のあった12,439点の作品の中から、選定しました。



6. 開催時期

平成31年春季 (西暦2019年春季)

7. 主催

公益社団法人国土緑化推進機構
愛知県

8. 開催規模

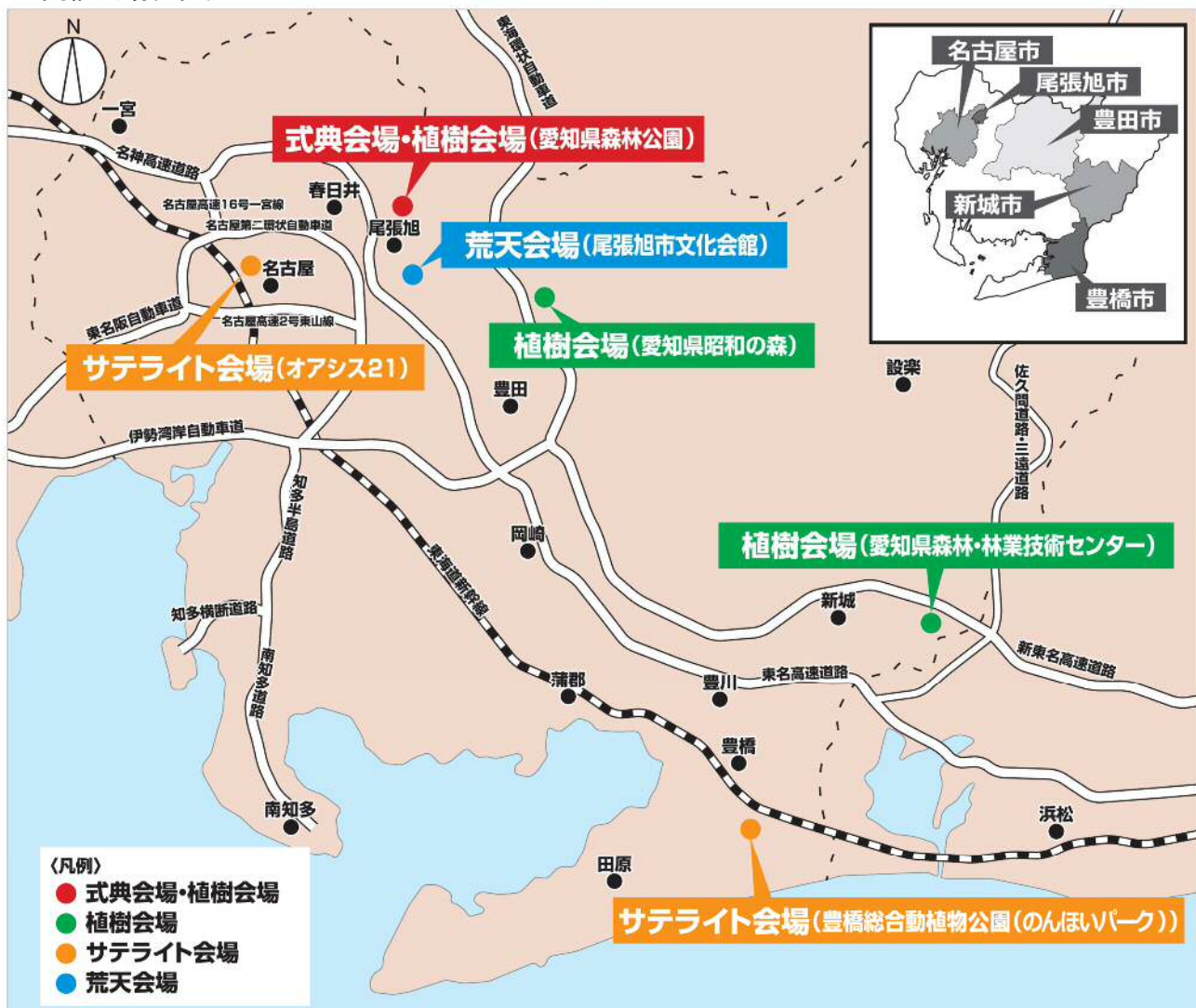
県内外から参加する招待者、本部員、協力員等を含めて10,000人程度の規模で開催します。
ただし、荒天時は縮小します。

< 参加予定者数 >

区分	参加予定者数	内訳
県外招待者	1,330人	国関係者、被表彰者、他県招待者 等
県内招待者	6,670人	県議会、市町村関係者、森林・林業・緑化関係団体、 公募招待者、県実行委員会 等
本部員、協力員	2,000人	実施本部員、協力員、出演者、運営ボランティア 等
合計	10,000人	

9. 開催会場

○開催会場位置図



(1) 式典会場

式典会場では、式典行事、天皇皇后両陛下によるお手植え・お手播き行事などを実施します。

● 愛知県森林公園（愛知県尾張旭市大字新居5182-1）

尾張丘陵の一角に位置しており、江戸時代前期には「えびづる御林」として保護されていたものの窯業などのために樹木が乱伐され、明治初期は一带がはげ山となっていました。

県の治山事業等により植生が回復し、昭和9年に日本初の「森林公園」としてオープンしました。一般公園、運動施設、植物園、ゴルフ施設等を有しており、総面積は536haです。



愛知県森林公園



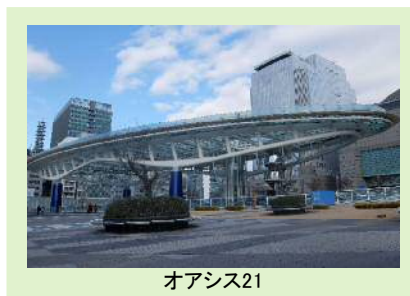
式典会場予定地

(2) 植樹会場及びその他の会場

式典会場の愛知県森林公園をはじめ、県内5ヶ所にて招待者の記念植樹を行います。また、県内2ヶ所に、サテライト会場を設置します。

< 植樹会場及びその他の会場 >

区分	会場名	
植樹会場	愛知県森林公園	休養の森
		南門
	愛知県昭和の森	記念の森
		四季の丘
	愛知県森林・林業技術センター	
サテライト会場	オアシス21	
	豊橋総合動植物公園(のんほいパーク)	



オアシス21



豊橋総合動植物公園(のんほいパーク)

1. 基本的な考え方

- ◆ 参加者が開催理念を共有するとともに、心に残る内容の植樹祭とします。
- ◆ 簡素化を図りながらも、厳粛で品格があるものとします。
- ◆ 県内外から子ども、高齢者、障害者など、できるだけ多くの方々が参加できるよう配慮します。

2. 式典演出計画

- ◆ 式典行事は、「プロローグ」「式典」「エピローグ」の3部構成とします。

< 演出構成 >

区分	演出テーマ	内容
プロローグ	—「過去」の誇り— “あいち 木とものづくりヒストリー”	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛知県の豊かな自然や愛知県が誇るものづくりの技術、伝統文化、農林水産業等を紹介 ● 「木材を利用する技術」から発展した愛知のものづくりの歴史を表現
式典	—「いま」の思い— 森林と都市をつなぐ “木に託す言の葉の大樹メッセージ”	<ul style="list-style-type: none"> ● 天皇皇后両陛下によるお手植え・お手播き、緑化功労者等の各種表彰、大会宣言、次期開催県へのリレーセレモニー等 ● 森林を伐採・利用し、植樹をして「森林づくり」や「都市づくり」を進めていくことの重要性を表現し、全国に発信
エピローグ	—「未来」への誓い— 未来に向けた森林と都市の “架け橋”を創る木づかいへの誓い	<ul style="list-style-type: none"> ● 木づかいによる「都市づくり」の未来を、若い世代が祝祭感豊かに表現



参考例：第68回全国植樹祭富山大会

3. 式典運営計画

- ◆ 式典の運営は、招待者の安全性、快適性に十分配慮し、みどりの少年団やボランティア等の方々の協力を得ながら行います。
- ◆ 司会者、アシスタント、式典音楽隊の出演者等については、地元団体をはじめ県内の関係団体等の協力と参加を得て編成します。

4. 式典進行プログラム

時間	区分	プログラム	進行内容
45分程度	プロローグ	プロローグ案内	●演出テーマ 「過去」の誇り “あいち 木とものづくりストーリー”
		歓迎演出	
		式典の御案内	
50分程度	式典	天皇皇后両陛下 御到着	
		開会のことば	国土緑化推進機構副理事長
		三旗掲揚・国歌斉唱	
		主催者挨拶	大会会長(衆議院議長)、愛知県知事
		表彰	緑化功労者などへの感謝の表彰
		苗木の贈呈	農林水産関係高校生から、 農林水産大臣ほかに苗木を贈呈
		天皇皇后両陛下のお手植え・お手播き	
		代表者記念植樹	県内外特別招待者
		大会テーマの表現	●演出テーマ 「いま」の思い 森林と都市をつなぐ “木に託す言の葉の大樹メッセージ”
		大会宣言	国土緑化推進機構理事長
		リレーセレモニー	次期開催県への引継ぎ
		閉会のことば	愛知県議会議長
		天皇皇后両陛下 御退席	
30分程度	エピローグ	エピローグ案内	●演出テーマ 「未来」への誓い 未来に向けた森林と都市の“架け橋”を創る 木づかいへの誓い
		エピローグ演出	

1. 基本的な考え方

- ◆ 本県の気候風土に適し、植樹会場周辺に生育する在来の樹種を選定するなど、地域の特性に応じた森林づくりを目指します。
- ◆ 本県で生産された苗木を植樹します。また、苗木のスクールステイなどにより、子どもたちが自らの手で育てた苗木も植樹します。

※苗木のスクールステイ： 全国植樹祭で使用する苗木の一部を県内の小中高生やみどりの少年団等に育成してもらい取り組み。

2. お手植え計画

- ◆ 天皇皇后両陛下のお手植えは、お手植え所で「森」の字をかたどり、それぞれ3本の植樹とします。
- ◆ お手植えされた記念樹は、森林づくり運動のシンボルとして、大切に管理・育成していきます。



参考例：第68回全国植樹祭富山大会

両陛下お手植え樹種(6種)

《 天皇陛下お手植え樹種 (3種) 》



※花粉の少ないあいちニコ杉と従来の杉の比較

スギ(あいちニコ杉)

● 愛知県の人工林の未来を担う少花粉スギ

- 三河山間部は、江戸時代から「三河スギ」の産地として有名です。
- 「あいちニコ杉」は、愛知県が推奨する花粉の飛散が少ない少花粉スギの愛称で、平成25年度に公募により命名されました。



クスノキ

● 愛知県の「市町村の木」選定数No.1、巨木の代表格

- 愛知県森林公園がある尾張旭市と名古屋市を含め、県内の12市町村で「市町村の木」に選定されています。
- 蒲郡市の「清田(せいだ)の大クス」が国の天然記念物に、岡崎市の「寺野(てらの)の大クス」と豊田市の「八柱(やはしら)神社のクス」が県の天然記念物に指定されています。



フモトミズナラ

● 名前が変遷している珍しいドングリの木

- 以前はモンゴリナラと呼ばれていましたが、ミズナラに似ているため、平成18年に新たにフモトミズナラと命名されました。
- 愛知県と岐阜県、そして北関東のみに分布する希少種で、県のレッドリストで準絶滅危惧に区分されている種です。

《 皇后陛下お手植え樹種（3種） 》



シデコブシ

● 白からピンクの花をつけ、里山の春を彩る代表的な木

- 愛知県・岐阜県・三重県のみ分布する固有種で、国のレッドリストで準絶滅危惧に、県のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に区分されている種です。
- 田原市の「柎（なぐさ）のシデコブシ自生地」が国の天然記念物に指定されています。



ヒトツバタゴ

● 春に白い花をつけ、雪に覆われたような姿が美しい木

- 別名「ナンジャモンジャ」として親しまれる、愛知県・岐阜県・長野県及び九州（対馬）に隔離分布する木で、国のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に、県のレッドリストで絶滅危惧ⅠB類に区分されている種です。
- 犬山市池野の「ヒトツバタゴ自生地」が国の天然記念物に指定されています。



シキザクラ

● 開花時期が長い珍しい桜

- 春はもちろん、秋の彼岸頃から雪の降る冬にも花をつけるので、四季に咲くサクラという意味から「シキザクラ」と名づけられました。
- 豊田市小原地区周辺では、県指定の天然記念物となっている樹齢百年以上の名木を始め、約1万本が植えられています。

3. お手播き計画

- ◆ 天皇皇后両陛下のお手播きは、お手播き箱へそれぞれ2種を播種します。
- ◆ お手播きされた種子は、愛知県が管理・育成し、県内の公共施設等に「記念樹」として配布します。

両陛下お手播き樹種（4種）

《 天皇陛下お手播き樹種（2種） 》



ヒノキ

● 愛知県の林業を支える木

- 愛知県の人工林で植栽面積が最も広い樹種です。
- 本植樹祭では、昭和54年第30回全国植樹祭において昭和天皇がお手植えされ、平成15年第27回全国育樹祭で皇太子殿下がお手入れされたヒノキから採取した種子を使用します。



アベマキ

● 愛知県の里山を代表する木

- 一般的に里山の代表樹種とされているのはコナラとクヌギですが、本県ではクヌギはほとんどなく、アベマキが目立ちます。
- 丘陵地～低山地に広がる痩せ山に多く、耐乾性があり、大木に育ちます。
- 名古屋市の「城山八幡宮の連理（れんり）のアベマキ」は縁結びの御神木として有名です。

《 皇后陛下お手播き樹種（2種） 》



ハナノキ

● 早春につける紅色の花が印象的な「県の木」

- 愛知県を代表する木で、国のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に、県のレッドリストで絶滅危惧ⅠA類に区分されている種です。
- 日本万国博覧会開催（大阪万博）を記念して実施された「緑のニッポン全国運動」の一環で、昭和41年の県民投票により県の木に選ばれました。
- 豊根村にある「川宇連（かわうれ）ハナノキ自生地」が国の天然記念物に指定されています。



マメナシ

● 春に白く可憐な花をつける野生のナシ

- 愛知県と三重県のみ分布する木で、国のレッドリストで絶滅危惧ⅠB類に、県のレッドリストで絶滅危惧ⅠA類に区分されている種です。
- 本県では名古屋市付近の湿地やため池の周辺などに自生しています。
- 小牧市の「大草（おおくさ）のマメナシ自生地」が県の天然記念物に指定されています。

4. 代表者記念植樹計画

- ◆ 招待者代表は、天皇皇后両陛下の2本目のお手植えと同時に記念植樹を行います。
- ◆ 場所は、特別招待者席前で行うものとし、それぞれ1本ずつ植樹を行います。
- ◆ 樹種は、天皇皇后両陛下のお手植えと同じ樹種とします。

5. 招待者記念植樹計画

- ◆ 招待者記念植樹は、県内外からの招待者による1人1本以上の記念植樹とします。
- ◆ 県外招待者は、式典行事開始前の午前中に植樹し、県内招待者は、午前中を中心に植樹します。
- ◆ 第70回全国植樹祭の開催理念である、「私たちは、「木材の利用」を山村と都市をつなぐ架け橋とし、健全で活力のある「森林づくり」と「都市づくり」を進めていきます。」に基づき、有用広葉樹や多種多様な樹種を植栽し、人と自然が織りなす里山林を創出します。また、花粉の少ないスギを植栽し、循環型林業を推進します。
- ◆ 植樹会場周辺に生育している樹種で、原則として現在愛知県内で生育している樹木から採取した種子等から育成した苗木を植樹します。
- ◆ 苗木のスクールステイなどにより、子どもたちが育てた苗木も使用します。
- ◆ 植樹会場は、第70回全国植樹祭開催後、適正に維持管理します。

< 招待者記念植樹樹種（27種） >

会場名		本数	樹種
愛知県森林公園	休養の森	約8,000本	アベマキ、コナラ、フモトミズナラ、エノキ、ムクノキ、ウワミズザクラ、ヤマザクラ、アズキナシ、イロハモミジ、エゴノキ、シデコブシ、アラカシ、シラカシ、ツブラジイ、クスノキ、ヤブツバキ、モチノキ、ヤマモモ、ソヨゴ、コバノミツバツツジ、ムラサキシキブ、コバノガマズミ、ガマズミ、タニウツギ、アオキ、シャシヤンボ
	南門		
愛知県昭和の森	記念の森		
	四季の丘		
愛知県森林・林業技術センター			あいちニコ杉

1. 基本的な考え方

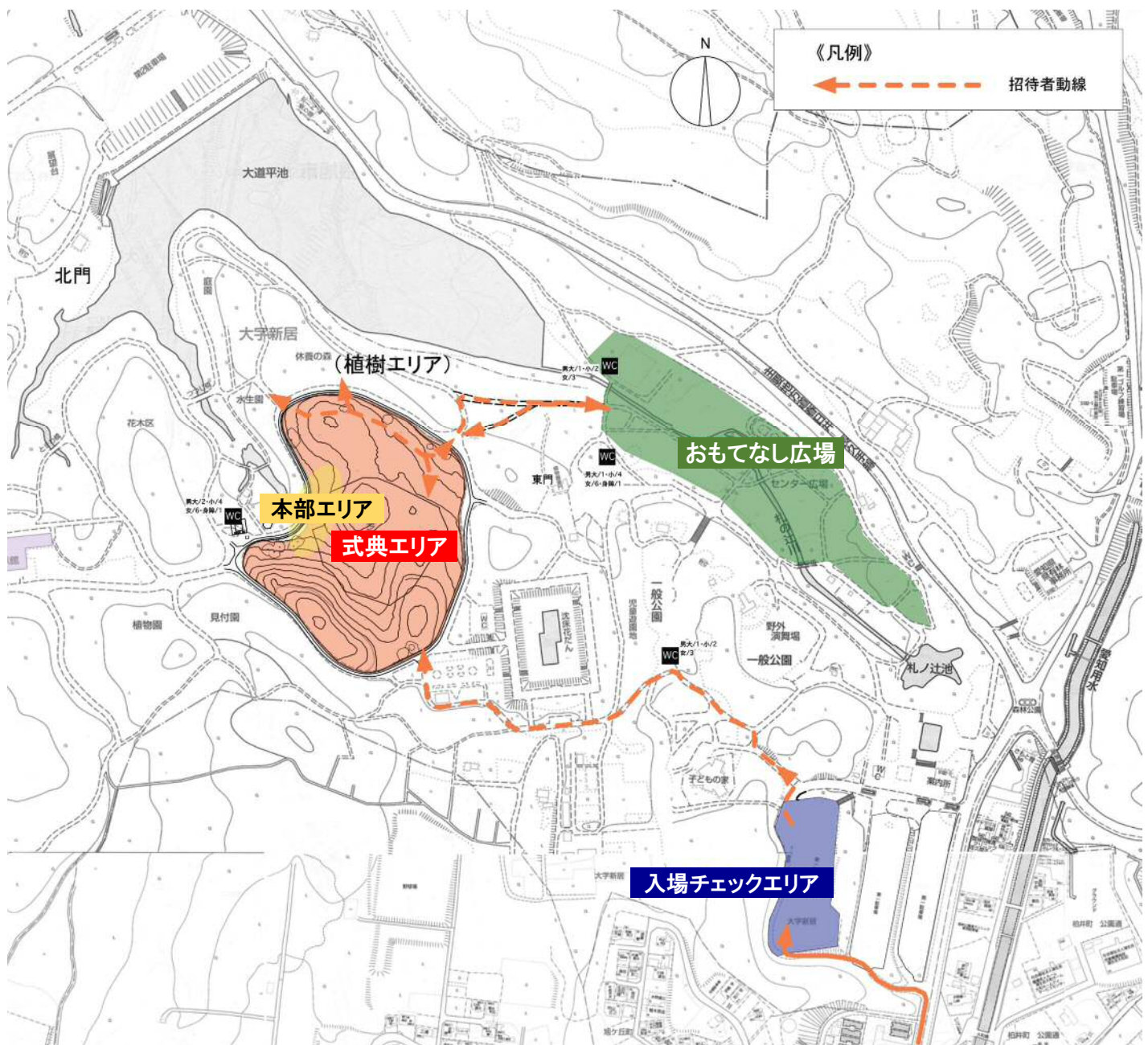
- ◆ 会場の整備にあたっては、安全性や機能性を考慮し、招待者が安心して快適に参加できるように配慮します。
- ◆ 会場の整備にあたっては、積極的に県産の木材や花きを使用します。

2. 施設配置計画

(1) 会場周辺状況

- ◆ 会場は、式典エリア、本部エリア、おもてなし広場、入場チェックエリア等にゾーン分けします。

○会場ゾーニング図



(2) 式典会場イメージ

○式典会場イメージパース



3. 主要施設計画

(1) お野立所

- ◆ 山・川・平野・海といった多様で豊かな環境に恵まれるとともに、「ものづくり王国」として技術と伝統が息づき、地理的にも日本の中心である愛知県から、これからの「木づかい」や「森林づくり」を全国に発信することをイメージし、広がりのある開放的な施設とします。
- ◆ 一般に流通している柱材を利用しながら、曲線的なフォルムを描くことで、「木づかい」を大きく羽ばたかせ、明日へつなぐ本県の姿勢を表現します。
- ◆ 「伐る・使う→植える→育てる」循環型林業をはじめ、愛知県が推進する木づかいからの森林づくりをPRするため、全てに県産木材を使用し、大会終了後は、部材を再利用します。



お野立所イメージ

(2) 会場内工作物

- ◆ 会場内工作物は、原則として県産木材を使用し、安全性、経済性及び周辺の景観に配慮したものとします。

4. サイン計画

- ◆ 招待者が安全かつスムーズに式典行事や植樹行事などに参加することができ、各施設への移動に支障がないよう、各所に案内サインを設置します。
- ◆ 案内サインは、招待者が見やすい色彩、大きさにするとともに、見やすい位置、高さに設置します。また、絵文字を使用する等、招待者が一目で分かるようなサインとします。
- ◆ 案内サインの材料には、県産木材のほか、環境に配慮した資材の使用に努めます。

< 案内サイン種別及び内容 >

設置区域	サイン種別	内容
会場全体	施設表示	各エリア、施設等の名称を表示
	誘導	招待者を各エリア、施設等に誘導するサインを動線上に設置
	注意事項	遵守事項、安全管理事項、手荷物検査の協力要請事項、持ち込み禁止物に関する注意事項等を表示
式典会場	座席表示	中央特別招待者には、各席に座席表を貼付 特別招待者入口には座席配置表を設置 一般招待者席は、バス号車単位で座席を表示
	会場案内図	会場内の全体図及び現在地の表示
植樹会場	植樹地誘導	バス号車ごとに決められたブロックへ誘導するサインを動線上に設置
	植樹位置	バス号車単位に決められた植樹ブロックを表示
	式典会場誘導	植樹終了後、式典会場へ誘導するサインを参加者動線上に設置
輸送バス	バス号車	添乗員が招待者を誘導する際、バス号車を表示したプラカードを使用



参考例: 第68回全国植樹祭富山大会

5. 飾花計画

- ◆ 会場周辺の飾り花は、「花の王国あいち」らしく、県産の花きを使用し、会場を華やかにするとともに、招待者の安全かつ円滑な動線を確保するよう配置します。



参考例：第67回全国植樹祭長野大会



参考例：第68回全国植樹祭富山大会

設置区域	内容
式典会場	各エリアの動線や区分を行うとともに、会場の雰囲気を引き立てるよう、プランター等を設置。
植樹会場	各エリアの植樹区分が分かりやすくなるよう配置。
式典会場と植樹会場の連絡通路	招待者の安全で円滑な誘導ができるよう、プランターを設置。
アクセス道路	県および関係者が一体となり、飾花を実施。

6. 電気・給排水・通信設備計画

(1) 電気設備計画

- ◆ 会場内で使用する電源は商用電源を引き込むほか、仮設電源（ジェネレーター等）を設置し対応します。

(2) 給排水計画

- ◆ 水は施設内より給水し、排水は回収後、適正に処理をします。

(3) 仮設トイレ計画

- ◆ 式典会場、植樹会場、おもてなし広場などに適正な数量を設置するとともに、衛生面にも十分配慮します。

(4) 通信設備計画

- ◆ 運営を円滑に行うため、会場の実施本部等に臨時電話を設置するほか、携帯電話やトランシーバー等の無線通信機器を適正に配置します。

1. 基本的な考え方

- ◆ 全国から参加される皆様を、県民全体が「おもてなしの心」でお迎えし、開催意義や理念を伝える場とします。
- ◆ 市町村、関係団体、NPO法人及びボランティア団体などと協力し、連携を図ります。
- ◆ 参加者の安全・安心を確保し、快適に、清潔に過ごせるよう会場運営を行います。

2. 招待計画

(1) 参加者の区分及び規模

参加者区分		人数
県外招待者	公益社団法人国土緑化推進機構理事長と愛知県知事との協議により定める者、各都道府県知事が推薦する者	1,330人
県内招待者	第70回全国植樹祭愛知県実行委員会会長が推薦する者、愛知県の市町村長が推薦する者、公募による一般県民	6,670人
小計		8,000人
本部員、協力員	実施本部員、協力員、出演者、運営ボランティア等	2,000人
合計		10,000人

(2) 運営にあたっての参加者の区分

参加者区分		人数	備考
①中央特別招待者		30人	国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、愛知県知事、県議会議員、次期開催県知事等
②特別招待者	県外特別招待者	300人	県選出国會議員、中央官庁・団体関係者、緑化功労者、コンクール入賞者、都道府県知事及び議会議員等
	県内特別招待者	370人	県議会議員、市町村長、緑化功労者、実行委員会委員等
	小計	670人	
③一般招待者	県外一般招待者	1,000人	各都道府県森林・林業関係者等
	県内一般招待者	6,300人	県内の森林・林業関係者及び県内公募による一般県民等
	小計	7,300人	
招待者小計 ①+②+③		8,000人	
④本部員、協力員		2,000人	実施本部員、協力員、出演者、運営ボランティア等
計 ①+②+③+④		10,000人	

3. 招待者の行動計画

時間	全体進行 (人数)	中央 特別招待者	特別招待者		一般招待者		本部員 協力員	
		30人	県外 300人	県内 370人	県外 1,000人	県内 6,300人		2,000人
7:00			指定宿泊地	指定集合地 指定宿泊地	指定宿泊地	指定集合地	指定集合地	
8:00	おもてなし 広場	指定宿泊地	入場チェック		記念植樹 (植樹会場)	入場チェック	各配置場所	
9:00		到着	記念植樹 (植樹会場)					着席
10:00		着席	着席					
11:00	式典行事	プロローグ						
		式典						
		代表者植樹	式典					
12:00		離席	エピローグ					
13:00	おもてなし 広場	昼食	昼食					
		会場散策						
14:00		駅・空港				記念植樹 (植樹会場)		
15:00			駅・空港	指定解散地	駅・空港	指定解散地	指定解散地	

※招待者の行動計画は変更となる場合があります。

4. 受付計画

(1) 前日受付

- ◆ 宿泊される招待者については、大会前日、指定宿泊施設にて1回目の受付を行います。
- ◆ 指定宿泊施設には招待者専用の受付を設置し、スムーズなチェックインができるようにします。
- ◆ 指定宿泊施設での受付業務は、原則、実施本部員が行います。

(2) 当日受付

- ◆ 全国植樹祭当日の受付は、指定宿泊施設や指定集合地で、バスに乗車する前に行います。
- ◆ IDカードの紛失や記念品・大会用品等が不足した場合に備え、式典会場入口付近にIDカード再発行所を兼ねた記念品・大会用品のストックヤードを設け、そこで不足品の対応を行います。
- ◆ 必要に応じて受付業務の補助や配付物の補充等の対応がとれるよう、関係者と連携を図ります。

< 受付内容 >

招待者区分	受付日	受付区分	受付場所	受付業務の内容
中央特別招待者	前日 到着時	宿泊受付	指定宿泊施設	①ルームキーの引き渡し ②記念品・大会用品の配付 ③宿泊案内の配付 ④レセプション参加の案内
県外招待者 (中央特別招待者を除く)	前日 到着時	宿泊受付	指定宿泊施設	①本人確認 ②ルームキーの引き渡し ③記念品・大会用品の配付 ④宿泊案内の配付
	当日①	バス乗車 受付	指定宿泊施設	①IDカードの着用確認 ②本人確認
	当日②	入場チェック	式典会場	①手荷物・IDカードの確認 ②入場チェック
県内招待者	当日①	バス乗車 受付	指定集合地	①本人確認 ②記念品・大会用品の配付
	当日②	入場チェック	式典会場	①手荷物・IDカードの確認 ②入場チェック

(3) 招待者に配付する物品等

- ◆ 本県の自然や産業、観光資源、特産品等を全国に情報発信するため、記念品等を配付します。
- ◆ 記念品の選定にあたっては、県産品の活用を図り、環境に配慮したものとするとともに、県外からの招待者の持ち帰りやすさにも配慮します。
- ◆ 式典の円滑な運営のため、IDカードや帽子等を配付します。

< 主な配付物 >

- ・ 大会プログラム
- ・ IDカード（識別証）
- ・ 帽子（参加者区分）
- ・ 記念品（特産品等） 等

5. 特別接伴計画

特別接伴が必要と認められる招待者には、実施本部員が次の対応をします。

(1) 中央特別招待者対応

- ◆ 移動には原則として公用車・借上車等の乗用車を使用します。
- ◆ 前日は、出迎えからレセプションの受付、会場内の案内、誘導、宿泊施設への案内など常時サポートします。
- ◆ 式典当日は、出迎えから受付誘導、会場内の案内、植樹誘導、昼食案内、見送りまで常時サポートします。
- ◆ 中央特別招待者の行動を常時把握できる通信連絡体制を整えます。

(2) 特別招待者対応

- ◆ 移動には原則としてバスを使用します。
- ◆ レセプションに参加する特別招待者については、出迎えからレセプションの受付、会場内の案内、誘導、宿泊施設への案内など常時サポートします。
- ◆ 式典当日は、出迎えから受付誘導、会場内の案内、植樹誘導、昼食案内、見送りまで常時サポートします。
- ◆ 特別招待者の行動を常時把握できる通信連絡体制を整えます。

6. レセプション計画

- ◆ 天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、第70回全国植樹祭招待者の来訪を歓迎し懇親を深める場とします。

<主 催> 愛知県

<開催日時> 全国植樹祭開催の前日

<会 場> 両陛下の宿泊施設内

<出席者> 600名程度

・中央特別招待者

(国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、愛知県知事、県議会議員 等)

・県外特別招待者

(県選出国会議員、緑化功労者、代表表彰者 等)

・県内特別招待者

(県議会議員、市町村長、緑化功労者、実行委員会委員 等)

7. 会場内動線計画

(1) 入場時の動線

○会場内導線図



(2) 退場時の動線

入場時のコースを反対に戻る動線とします。

8. 会場おもてなし計画

- ◆ 式典会場と隣接しておもてなし広場を設置します。招待者が安心・安全・快適に過ごせるよう総合案内所や湯茶接待コーナー、救護所、仮設トイレ等を整備します。
- ◆ 本県の木づかいや森づくり活動の取組みや観光、特産品等を招待者に広くPRするため、各種展示コーナーや観光案内所、物産販売ブース等を関係団体の協力により運営します。
- ◆ おもてなしステージでは、歌や踊り、民族芸能等の演目を実施します。
- ◆ おもてなし広場の運営にあたっては、出展者等との協力により、廃棄物の減量化に取り組むとともに、飲食物の提供において環境に配慮した容器を使用する等、環境に優しい運営に努めます。

< おもてなし広場内容 >

区分	施設名	内容
おもてなし広場	総合案内所	参加者に対する各種案内・情報提供、案内誘導、各種パンフレットの配布、遺失・拾得物の管理
	おもてなしステージ	歌や踊り、民族芸能等の披露
	湯茶接待コーナー	参加者に湯茶、ミネラルウォーターを提供
	販売コーナー	愛知県内の特産品や飲食物等の販売
	展示コーナー	愛知県内の森林・林業、観光等を紹介
	臨時郵便局	記念切手の販売、郵便・宅配サービス
	救護所	参加者の体調管理・救護
	休憩コーナー	休憩用テントを設置
植樹会場	案内所・簡易救護所	参加者に対する各種案内・情報提供、応急処置



参考例：第68回全国植樹祭富山大会

9. 昼食計画

(1) 基本的な考え方

- ◆ 県産食材をふんだんに使用した「愛知県らしい」献立とします。
- ◆ 弁当の製造、輸送、保管、配付にあたっては、衛生・安全面に万全を期します。
- ◆ 弁当等の容器・包装資材については、環境に十分配慮します。



参考例: 第68回全国植樹祭富山大会

10. 医療・衛生計画

(1) 医療救護所の設置

- ◆ 式典会場及び植樹会場に救護所を設置し、傷病者の医療救護を行います。
- ◆ 救護所には、医薬品や休憩用ベッド等を備えます。
- ◆ 消防署や近隣の医療関係機関の協力を得て、緊急の場合の搬送・受入体制を整えます。

(2) 衛生対策

- ◆ 保健所等の協力を得て、食品衛生や環境衛生について、関係機関と協議を行い、衛生対策体制を整備します。
- ◆ 食の安全を期すため、弁当業者や宿泊施設、会場内の食品提供施設などの指導を徹底します。
- ◆ 飲食等により発生する廃棄物の適切な処理を行い、各会場及びその周辺の環境美化に努めます。

11. 消防・防災・警備計画

(1) 基本的な考え方

- ◆ 消防、警察署その他関係機関との協力体制を築き、連携を密にして、招待者等の安全を確保し、安心して参加いただけるようにします。
- ◆ 危機管理については、責任者を明確にし、迅速な初期対応ができるようマニュアル等を作成し、研修を行います。

(2) 消防・防災

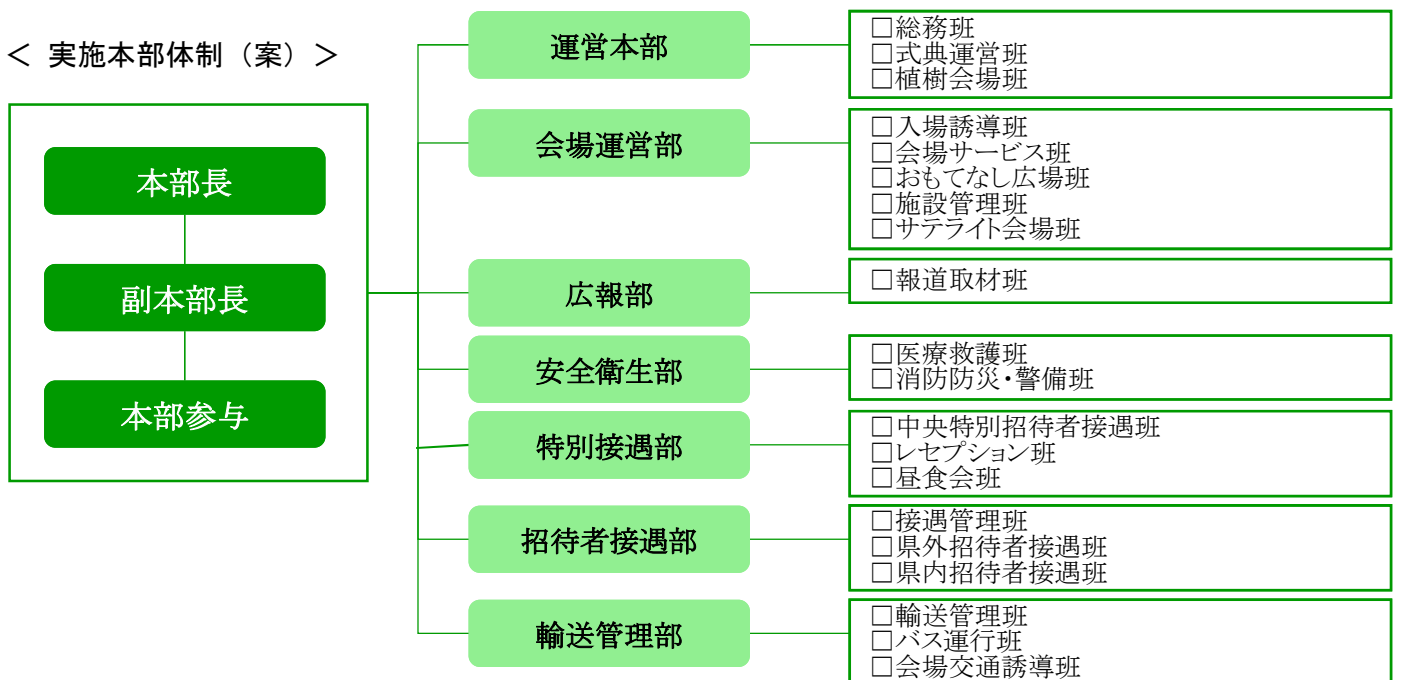
- ◆ 実施本部の安全衛生部（消防防災・警備班）が中心となり、異常事態の早期発見・通報に努めます。
- ◆ 会場内は、喫煙所を除き全て禁煙とし、主要施設には消火器を設置します。
- ◆ おもてなし広場等の火気使用についても管理を徹底します。
- ◆ 避難計画を策定し、実施本部員への周知を図るとともに、安全に避難できる体制を整えます。

(3) 警備

- ◆ 会場内での事件・事故を防止し、円滑な運営を図るため、警察等関係機関と協力して警備を実施します。
- ◆ 警備員や実施本部員などを配置して、警備や車両の整理、招待者等の誘導を行います。
- ◆ 式典会場の入場ゲートでは、金属探知機等による持ち物検査や入場者の確認を行います。
- ◆ 式典会場、植樹会場、駐車場等では、使用物品等の搬入後、夜間も含め、監視・巡回警備等を行います。

12. 実施本部計画

- ◆ 円滑な運営を図るための実行組織として、「第70回全国植樹祭愛知県実施本部（仮称）」を設置します。
- ◆ 県職員、市町村職員、ボランティアなどの積極的な協力を得て効率的な要員配置を行うとともに、実施運営の円滑化及び招待者等の安全性や快適性の確保に努めます。



13. 研修・リハーサル計画

- ◆ 円滑な運営に向けて、実施本部員、協力員の研修を行うほか、出演者を含めたリハーサルを実施します。
- ◆ 効果的な研修・リハーサルを実施するため、事前に各班の運営マニュアルを作成します。
- ◆ 研修・リハーサル計画に基づき、実施本部員全員が業務内容を把握できるようにします。

(1) 実施本部員等の研修計画

- ◆ 実施本部員、協力員の研修は、事前の資料配付、リハーサルへの参加等により実施します。

(2) 研修・リハーサル計画

区分	時期	場所	参加者	内容
出演者説明会	開催3ヶ月前	未定	出演者代表	大会概要・参加内容説明
合同説明会	開催8～6週間前	未定	実施本部員 出演者代表	大会全体の説明
式典リハーサル	開催6～4週間前	式典会場	出演者(介添者) 実施本部員	式典行事のリハーサル
総合リハーサル	開催1ヶ月前	式典会場 植樹会場	実施本部員 協力員 出演者	全体通しリハーサル、車両・参加者誘導、接遇研修、非常時訓練他
荒天会場説明会	開催1ヶ月前	荒天会場	出演者(介添者) 実施本部員	会場確認及び説明
前日リハーサル	開催前日	式典会場 植樹会場	実施本部員 協力員 出演者	全体通しリハーサル、車両・参加者誘導、接遇研修、非常時訓練他

14. 雨天時・強風時対応計画

- ◆ プログラムごとに雨天時等計画を策定し、役割分担の明確化と雨天時等体制へのスムーズな移行を行います。
- ◆ 式典演出については、天候に応じ各出演団体との協議の上、内容の変更を決定します。
- ◆ 式典音楽隊の演奏が不可能な場合は、事前に演奏を収録した音源を使用します。
- ◆ 会場警備上、傘の持ち込みができないため、事前にレインコートを配付します。

1. 基本的な考え方

- ◆ 式典前日に、宿泊される招待者（主に県外招待者）は、実行委員会が指定する施設に宿泊することとします。
- ◆ 式典当日は、前日宿泊された招待者は宿泊施設から、宿泊されない招待者は最寄りの集合地から、実行委員会が準備したバスにより会場に移動することとします。
- ◆ 宿泊施設の収容人数、宿泊料金、道路交通事情、送迎体制を総合的に勘案し、無理のない宿泊・輸送体制を整えます。
- ◆ 参加者の安全で円滑な輸送を図るため、運行ルート、輸送スケジュール及び必要な交通規制などについて、関係者で綿密な打ち合わせを行うとともに、添乗員の配置・案内により快適な輸送体制を整えます。
- ◆ 会場周辺及びアクセス道路沿線では、地元市町村や関係者、地域住民の参加・協力を得て、美化に努め、招待者を歓迎します。
- ◆ 愛知県の温かいおもてなしの心をもって、無理のない安全、安心な宿泊・輸送体制を整えます。



参考例：第68回全国植樹祭富山大会

2. 宿泊計画

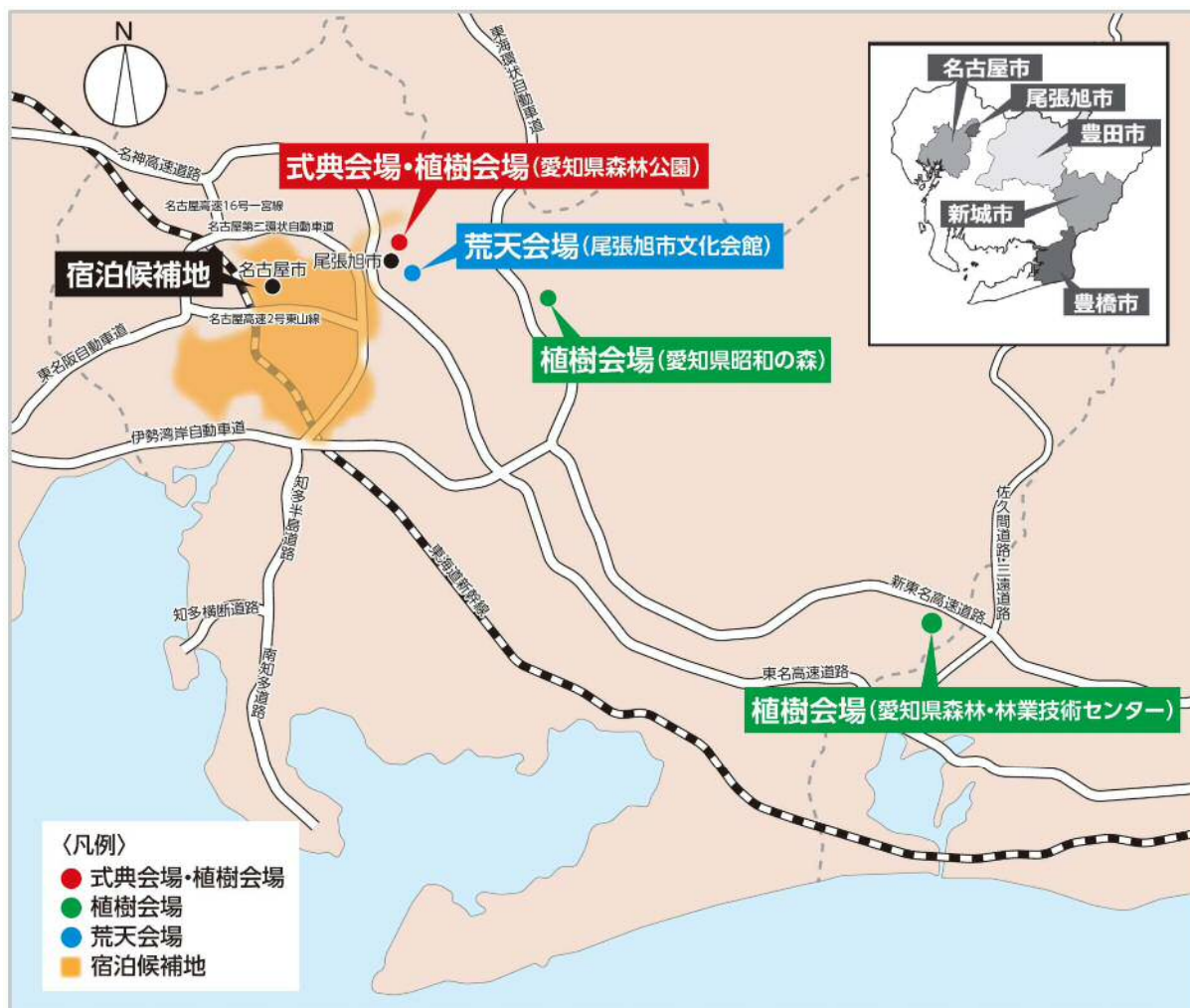
(1) 宿泊施設の選定

- ◆ 式典会場や植樹会場までの道路状況やアクセス等を考慮した宿泊エリア・宿泊施設を選定します。
- ◆ 施設内または近隣で、安全にバスの乗降できる場所が確保された宿泊施設を選定します。
- ◆ フロントやロビー等宿泊施設内に専用デスクを設置し、大会用品（大会プログラム、IDカード、帽子等）を円滑かつ確実にお渡しできる体制を整備します。
- ◆ 食事のメニューについては、本県の食のPRに努め、県の特産品を積極的に取り入れたメニューを提供します。
- ◆ 緊急時に搬送できる救急病院や緊急対応担当者の有無、AED（自動体外式除細動器）の設置状況を事前に把握し、万が一の事故に備えます。

(2) 宿泊候補地

- ◆ 宿泊される招待者は、名古屋市内を中心に御宿泊いただきます。

○ 宿泊候補地位置図



3. 輸送計画

(1) 輸送方針

- ◆ 参加者はバスで移動することを原則とし、参加者区分ごとに輸送計画を作成します。
- ◆ 参加者の安全で円滑な輸送を行うため、バス事業者、関係機関と協議・検討の上、運行ルートを決めます。
- ◆ 式典当日の道路混雑等のリスクを想定し、極力移動時間がかからない最短ルートを設定します。
- ◆ 交通事故や渋滞等の不測の事態に備え、代替ルートや迂回ルートの設定を行います。

(2) 関係車両一覧

参加者区分	輸送手段	台数	同乗者	備考
中央特別招待者	借上車等	30台	接伴員	出迎え・添乗・誘導・見送り
県外招待者	計画輸送バス	40台	添乗員	各種案内・誘導
県内招待者	計画輸送バス	190台	添乗員	各種案内・誘導
本部員、協力員	計画輸送バス	50台	担当班員等	
合計	借上車等 計画輸送バス	30台 280台		

4. 運行管理体制・緊急時対応

- ◆ 式典会場周辺に輸送管理本部を設置し、運行状況の管理を一元的に行います。
- ◆ 車両の運行状況を把握し、安全で円滑な運行体制を実現するため、輸送ルート上に休憩所、チェックポイント、バス運行調整地を設け、それぞれに係員を配置し、携帯電話や無線機等により、リアルタイムの連絡体制を確保します。

5. 道路交通対策

- ◆ 会場周辺の道路や参加者の輸送ルートにあたる道路については、事前に道路管理者と協議の上、道路工事や道路占用許可等の必要な措置を講じます。
- ◆ 参加者及び周辺住民等の交通の安全の確保と車両の円滑な運行を行うため、関係機関の協力を得て、交通整理、交通規制等を実施します。

1. 基本的な考え方

- ◆ 暴風雨、集中豪雨等の荒天に見舞われ、式典会場での式典が困難であると判断した場合は、荒天会場での式典を実施します。
- ◆ 開催日の1週間前から随時情報収集に努め、式典会場での式典の実施の可否を判断します。
- ◆ 荒天会場での実施決定に備え、関係機関と万全の連絡体制を構築し、円滑な実施運営を行います。

2. 荒天会場

- 尾張旭市文化会館（愛知県尾張旭市東大道町山の内2410-11）

○荒天会場位置図



荒天会場〈尾張旭市文化会館〉

3. 参加者一覧

区分	内 訳	人 数
中央特別招待者	国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、愛知県知事、県議会議長、次期開催県知事等	30人
県外招待者 (特別)	県選出国會議員、中央官庁・団体関係者、緑化功労者、コンクール入賞者、都道府県知事及び議会議長 等	300人
県内招待者 (特別)	県議会議員、市町村長、緑化功労者、実行委員会委員 等	370人
本部員、協力員	実施本部員、協力員、運営ボランティア 等	300人
合 計		1,000人

4. 荒天時運営計画

(1) 式典計画

- ◆ 晴天時の3部構成を式典のみとし、大会テーマの表現、代表者記念植樹を除いた構成とします。
- ◆ 式典の時間は、50分程度とします。

(2) 式典プログラム

時間	進行
招待者入場	
10分程度	国務大臣、愛知県知事、次期開催県知事、開催市町等到着
式典	
50分程度	天皇皇后両陛下御到着 開会のことば 国歌斉唱 主催者挨拶 表彰 苗木の贈呈 天皇皇后両陛下のお手植え、お手播き 大会宣言 リレーセレモニー 閉会のことば 天皇皇后両陛下御退席
招待者退場	

(3) 判定会議

- ◆ 荒天時や地震、突発事案の非常事態に迅速、適切に対応するため、必要に応じ大会開催の可否について判断する会議（以下、「判定会議」という。）を設置します。
- ◆ 判定会議のメンバーやその召集方法、大会の中止・変更の判断基準とその対応について、ガイドラインを設定します。

1. 基本的な考え方

- ◆ 第70回全国植樹祭の開催機運を盛り上げるため、県民参加の記念事業を実施します。

2. 記念事業の内容

(1) あいち“言の葉”キャラバン

各市町村で行われている農林・環境イベント等に
出向き、全国植樹祭の開催をPRするとともに、県
民から未来の木づかいや森林への思いに対する
メッセージを集めます。

【時期】平成29年5月13日～平成31年3月

【場所】全市町村（54市町村）

【内容】メッセージの収集（メッセージは、全国植樹祭式典の中で活用する）



(2) 地球未来子ども塾（共催 中日新聞社）

あいち“言の葉”キャラバンの一環として、次世
代を担う子供達を対象に、「木づかい人」による
ワークショップを開催します。

【時期】平成29年11月～平成31年3月

【場所】豊田市始め6か所

【内容】木製ランプシェード作り体験、組子細工
教室、からくり教室等



(3) 地域植樹イベント

県民参加による森林づくり活動を進めるため、
県内各地域で、植樹イベントを実施します。

【時期】平成29年5月～平成31年4月

【場所】県内各地（9か所程度）

【内容】記念植樹、あいち“言の葉”キャラバン等



(4) 苗木のスクールステイ

緑の大切さと緑づくりへの関心を高めるため、小中高生や
みどりの少年団等の協力により、全国植樹祭等で使用する苗
木の育成を行います。

【時期】平成28年10月～

【内容】県民参加による苗木の育成



(5) 第70回全国植樹祭1年前記念イベント

全国植樹祭の開催1年前の時期に、毎年春に開催している「愛知県植樹祭」をプレ大会として位置付け、大会の周知、開催機運の醸成を図ります。

- 【時期】 平成30年5月19日（土）
- 【場所】 愛西市親水公園総合体育館
- 【内容】 大会イメージソングの発表、フットサル教室及び記念植樹、あいち“言の葉”キャラバン、全国植樹祭の幟作り、苗木の配付、木材利用及び農林水産関係ブース等

(6) 第70回全国植樹祭PRイベント

第70回全国植樹祭の開催日や参加方法を周知して、全国植樹祭への参加を促します。

- 【時期】 平成30年9月15日（土）
- 【場所】 オアシス21（名古屋市東区）
- 【内容】 あいち“言の葉”キャラバン、ステージイベントやブースを使ったPRイベント等

大会成功に向け、PRイベントを開催します。

- 【時期】 開催年
- 【場所】 名古屋駅前（ナナちゃん人形前）
- 【内容】 PRイベント等

(7) 全国植樹祭シンボル「木製地球儀」リレー展示

第70回全国植樹祭の開催機運を醸成するため、「木製地球儀」をリレー展示します。

- 【時期】 平成30年6月～
- 【場所】 県内各地域
- 【内容】 木製地球儀の展示

(8) 各地域で実施される緑化関連イベント

県内各地で実施されるイベントを第70回全国植樹祭の記念事業と位置付け、それぞれ連携して啓発や情報発信等を行います。

- 【時期】 平成30年4月～
- 【場所】 県内各地域
- 【内容】 植樹、森林整備、木工教室、シンポジウム、観察会等



参考例：第68回全国植樹祭富山大会

(9) 記念誌の発行、記録映像の作成

第70回全国植樹祭の式典、植樹行事をはじめ、各種の記念行事等の取組を記録誌や記録映像等にまとめ、関係機関に配布します。

(10) 記念碑の建立

第70回全国植樹祭の開催を記念して御製碑を建立します。

3. 関連事業

(1) 第48回全国林業後継者大会

全国の森林・林業関係者が一堂に会し、林業後継者の育成や、健全な森林づくりを推進するための大会を行います。

- 【時 期】 平成31年春季（第70回全国植樹祭の前日）
- 【場 所】 未定
- 【内 容】 森林・林業関係者の活動発表、パネルディスカッション等



第44回全国林業後継者大会の広報誌

1. 基本的な考え方

- ◆ 広報活動や企業協賛を通じて、大会の開催意義、開催理念、内容等について広くPRするとともに、開催への機運を高めていきます。
- ◆ 広報媒体の特性を活かした情報発信により、効果的な広報活動を実施します。
- ◆ 大会テーマ、マスコットキャラクター及び大会ポスター原画を活用し、第70回全国植樹祭の開催を県内外に広報します。
- ◆ 広報大使にマリ クリスティーナさんを起用し、県内外に広報します。
- ◆ 第70回全国植樹祭あいち2019PR隊「チーム森ずきんちゃん」を結成しPRを図るとともに、大会を親しみやすいものとしてきます。
- ◆ 本県にゆかりのあるシンガーソングライターの岡村孝子さんに、大会イメージソングを製作していただき、県民の皆様へ大会を周知します。

2. 広報計画

(1) インターネットの活用

第70回全国植樹祭の公式ホームページを開設し、各種イベントや県内の森づくり等に関する情報を積極的に発信します。また、各種問い合わせや申し込みなどについても、インターネットやフェイスブックを効率的に活用します。

(2) 公共広報等の活用

県及び各市町村の広報や広報番組等の公共広報媒体を有効活用し、広く県民に向けて、きめ細かい情報提供とPR活動を実施します。

(3) マスメディアの活用

テレビ、ラジオ、新聞等、各報道機関との連携を深めるとともに、全国植樹祭、記念事業等に関する情報を提供します。

(4) 企業・団体との連携

マスコットキャラクター等の使用を広く呼びかけるなど、県内を中心とした企業・団体の支援協力による広報活動を通じ、全国植樹祭の周知を図ります。

(5) 植樹祭情報誌の発行

「全国植樹祭だより」を発行し、開催準備状況や記念事業の実施状況等について情報発信するとともに、県外からの招待者に向けては、本県の食や観光等の情報も併せて発信します。

(6) PRグッズの作成・配布

マスコットキャラクター等を用いた各種PRグッズを作成・配布し、開催の周知と機運の醸成を図ります。

3. 協賛計画

(1) 基本的な考え方

- ◆ 第70回全国植樹祭を県民参加の大会とするため、企業や団体等に対し、広く支援を求めています。
- ◆ 協賛企業等は、第70回全国植樹祭会場や公式ホームページ、記録誌等で協賛社名が掲載されるなど、様々な特典を用意します。

(2) 協賛の種類と内容

① 資金協賛

第70回全国植樹祭や各種記念事業等の開催に係る資金協力

② 物品協賛

第70回全国植樹祭や各種記念事業等の開催に係る物品協力

③ その他の協賛

各種メディアや企業広告を活用した広報協力や、機器等貸与、役務提供による協力等



[表紙写真]

左: 針葉樹林(岡崎市切山町)

右: 愛知県がんセンター愛知病院 地域緩和ケアセンター(岡崎市)

下: 名古屋都市風景 新緑の名古屋城と高層ビル群



[裏表紙]

大会ポスター原画:「ぼくの木」



第70回全国植樹祭 基本計画

平成30年2月

第70回全国植樹祭愛知県実行委員会事務局
(愛知県農林水産部農林基盤局森林保全課全国植樹祭推進室内)

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話：052-954-6618 ファクシミリ：052-951-7882

ホームページ：<http://www.syokujusai-aichi2019.jp>

または、「第70回全国植樹祭 愛知」で検索してください。